

2022年11月1日

## 神戸学園都市 YMCA こども園 11月えんだより

11月の聖句 「わたしの隣人とはだれですか。」

ルカによる福音書 10章25節～37節

朝夕、日中の寒暖差が大きくなり、山々の木々も少しずつ色合いに変化がみられる季節になってきました。運動会やキャンプなど、様々な活動を通して子どもたちも一段と頼もしくなってきましたが、体調に気を付けて元気に毎日を過ごすことができるように祈っています。

「命のビザ」、皆さんも一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。今から80年余り前、ドイツとソ連の間にあった小さな国リトアニアの領事代理だった杉原千畝さんが、ナチス・ドイツの迫害から逃れてきたユダヤ難民に本国からの指示を無視して日本通過ビザを発給しました。このビザによって6千人ともいわれるユダヤ難民の人々がヨーロッパからシベリア鉄道でウラジオストクに向かい、日本の福井県敦賀市にたどり着きました。当時の様子を見憶えている方の話によると、多くのユダヤ難民の人々の中にはズボンの裾が破れ、靴に針金を巻いて靴底をとめている人もいたということです。本当に「命からがら」の逃避行でした。その後、ユダヤ難民の多くが戦前からユダヤ人コミュニティがあった神戸を目指し、神戸の人々の支援を受けたそうです。その時の活動の一つに、ユダヤ難民の人々にりんごを配るといったものがあって「命のりんご」とも呼ばれています。杉原さんの「命のビザ」から神戸の人々の「命のりんご」へ、ユダヤ難民の人々への支援がつながっていったのです。その後、ユダヤ難民の多くはアメリカへと出国していきました。当時、ドイツと同盟を組んでいたこともあってか、ユダヤ難民を支援した人の中には特高警察に逮捕された方もいたようです。また、この神戸の人々の「愛」の行動は、神戸市の市史に記述されておらず、公的な記録はほとんど残っていないようです。「命のビザ」を発給した杉原さんは戦後外務省から免官され「国賊」と中傷されたこともあったそうですが、2000年になってようやく政府から名誉回復をされました。杉浦さんが「命のビザ」の発給を決意した際、「あとで自分たちはどうなるかわからないけれど。」と思いつつ旧約聖書の「町のかどで、飢えて、息も絶えようとする幼な子の命のために、主にむかって両手をあげよ」という言葉を思い浮かべていた夫人が傍らにいたそうです。

「最も小さい者（弱い者）の一人にしたのは、わたしにしてくれたこと」という言葉が聖書の中にあります。「命のビザ」「命のりんご」から80年余り経った今の時代も、戦争、災害、飢饉、迫害、そして、いじめ。様々な苦難の中で「最も小さい者（弱い者）」とされている人々が多くいます。私たちにとって「隣人」とは、この「最も小さい者（弱い者）」なのではないかと思えます。毎日のこども園での生活の中で、この「隣人」に気づける者となれるような歩みを子どもたちと共に続けて行くことができると祈っています。

11月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	ありがとう	ありがとう
月の願い	*神様からのたくさんの恵みを受けて、「うれしいな」「おいしいね」「ありがとう」と心と体で感じ、味わいながら過ごしてほしいと思います。	*神様が与えてくださった自然や様々な恵み、いつも一緒に過ごしている友だちや家族に「ありがとう」の感謝の気持ちを感じながら過ごしたいと思います。
讃美歌	「おほしがひかる」	「あなたの平和の」 聖歌集増補版 1